

「港湾経済研究」総目次
(1963年No.1～1991年No.29)

1. 1963年 (No.1)

本邦戦時港湾施策	矢野 剛
港湾財政の問題点	柴田 銀次郎
港湾設備の増強と地域開発	伊坂 市助
港湾における新しい労働管理の概念	高見 玄一郎
港湾運送業の現状	松本 清
衣浦港の交通	松浦 茂治
港湾経済の本質	北見 俊郎
港湾施設の与えた損害に対する船主の賠償責任と海上保険	今泉 敬忠

「イギリス主要港湾に関する調査委員会報告書」	中西 睦
「神戸港における港湾荷役経済の研究」	寺谷 武明

2. 1964年 (No.2) 「港湾投資の諸問題」

長期経済計画における港湾投資額の推計	加納 治郎
摩耶ふ頭の建設と運営	岸 孝雄
公共投資と港湾経済	北見 俊郎
イギリスにおける港湾諸料金の徴収制度と問題点	中西 睦
ヨーロッパの石油港湾	浮穴 和俊
港湾労働対策への一提案	柴田 銀次郎
港湾労働の課題	河越 重任
船積み月末集中の原因とその対策	高村 忠也
国際コンテナの諸問題	宮野 武雄

北見俊郎著「アジア経済の発展と港湾」	中西 睦
北海道立総合経済研究所編「北海道の港湾荷役労働」	寺谷 武明
同上「港湾労働」	北海道立総合経済研究所

3. 1965年 (No.3) 「経済発展と港湾経営」

港湾のもたらす経済的利益の分析	柴田 銀次郎
港湾経営の「理念」と問題性	北見 俊郎

港湾機能の地域的問題点	今 野 修 平
国際収支における港湾経費改善のための理論的考察	中 西 睦
港湾資産評価とその問題点	杉 沢 新 一

矢野剛著「港湾経済の研究」	寺 谷 武 明
海運系新論集刊行会編「海運と港湾の新しい発展のために」	織 田 政 夫
向井梅次著「港湾の管理開発」	喜多村 昌次郎
喜多村昌次郎著「港湾労働の構造と変動」	徳 田 欣 次
宮崎茂一著「港湾計画」	川 崎 芳 一
P. C. Omtvedt, Report on the Profitability of Port Investments	中 西 睦
J. Bird, The Major Seaports of the United Kingdom	北 見 俊 郎

4. 1966年(No.4)「地域開発と港湾」

後進的地域開発と港湾機能	武 山 弘
港湾による地域開発問題について	田 中 文 信
港湾機能と経済発展——地域開発に関連して——	北 見 俊 郎
東北開発と野蒜築港——明治前期港湾の一事例——	寺 谷 武 明
神奈川県の第3次総合開発計画と新しい港湾の計画理論	高 見 玄一郎
港湾における都市再開発の問題	
——東京港における都市再開発を例として——	今 野 修 平
港湾労働の基調	
——横浜港における労働力移動の素描——	喜多村 昌次郎
港湾労働の近代化条件について	徳 田 欣 次
港湾の最適投資基準	
——神戸港における測定の一例——	是 常 福 治
名古屋港発展史	
——昭和13—32年の20か年について——	松 浦 茂 治
港湾の物的流通費について	中 西 睦
パレット、フォークリフトの諸問題	宮 野 武 雄
イギリス戦時港湾施策	矢 野 剛
東京湾における広域港湾計画に対する一指針	奥 村 武 正 今 野 修 平
横浜港施設改善に関する日本損害保険協会からの 要望について	今 泉 敬 忠

Colonel R. B. Oram, Cargo Handling and the Modern Port	松 木 俊 武
Charles P. Larrowe, Shape-up and Hiring Hall	山 本 泰 督
高見玄一郎著「港湾労務管理の実務」	徳 田 欣 次
松宮 斌著「港湾の財政・経営のあり方」	柴 田 悦 子
横浜市港湾局編「横浜港における港湾労働者の実態と 住宅事情」	和 泉 雄 三
新潟臨港海陸運送株式会社編著「創業六十年史」	小 林 寿 夫

5. 1967年(No.5)「日本海沿岸の港湾の諸問題」

輸送の近代化と臨港上屋の運営	松 本 清
港湾業務の合理化と海運	岡 庭 博
流通近代化とコンテナリゼーション	高 見 玄一郎
物的流通の近代化と港湾	斎 藤 公 助
「輸送の近代化」と全港湾輸送体制	北 見 俊 郎
経済開発と日本海沿岸の港湾	佐 藤 元 重
新潟臨港埠頭の形成とその特性	小 林 寿 夫
小樽港の現状と課題	神 代 方 雅
港湾施設利用の問題点	今 野 修 平 井 上 洋二郎
港湾原単位算定における問題点	杉 沢 新 一
港湾労働法の施行をめぐる諸問題	大 森 秀 雄
後進島地域経済発展の転型と港湾商機能	武 山 弘
砂利類の海上輸送増大化傾向について	棚 橋 貞 明
わが国における運河発達の特性	柁 幸 雄

住田正二著「港湾運送と港湾管理の基礎理論」	佐々木 高 志
中西睦著「港湾流通経済の分析」	河 西 稔
港湾産業研究会編「港湾産業の発展のために」	和 泉 雄 三
Docks and Harbours Act 1966	河 越 重 任
V. H. Jensen, Hiring of Dock Workers	織 田 政 夫

6. 1968年(No.6)「輸送の近代化と港湾」

港湾の近代化と運送の機械化	和 泉 雄 三
都市化と港湾の近代化	今 野 修 平
苫小牧港における専用船の実態	松 沢 太 郎

港湾の経済的性格に関して……………	柴田悦子
ターミナル・オペレーションの経営的基礎	
——米国主要港との比較において——……………	喜多村昌次郎
地方公営企業としての港湾整備事業……………	細野日出男
港湾とシティ・プランの基本論……………	神代方雅
貨物輸送上における港湾……………	宮野武雄
未来学成立の可能性	
——港湾論に関連づけて——……………	本間幸作

日本港運協会編「日本港湾運送業史」……………	寺谷武明
松本好雄著「コンテナの輸送実務」……………	松岡英郎
喜多村昌二郎著「輸送革新と港湾」……………	玉井克輔
北見俊郎著「港湾論」……………	梶幸雄
B. Chinitz, Freight and the Metropolis……………	武山弘
T. A. Smith, A Functional Analysis of the Ocean Port……………	山本泰督

7. 1969年(No.7)「大都市港湾の諸問題と将来」「流通体系の斉合性と港湾の近代化」

大阪港の貨物流通とその問題点……………	柴田悦子
大都市港湾としての東京港の問題点……………	今野修平
広域港湾論、主としてオペレーションの観点から……………	高見玄一郎
大都市港湾の問題点と将来……………	北見俊郎
港湾運送機能合理化の考察……………	宮地光之
海運流通の斉合性……………	神代方雅
港湾の近代化と「制度」の問題……………	佐々木高志
港湾労働災害に関する責任の所在についての考察	
——特に船内荷役労働について——……………	玉井克輔

大阪市港湾局編「大阪港史」……………	寺谷武明
栗林商会労働組合編「栗林労働史」……………	喜多村昌次郎
神戸市企画局調査部編「広域港湾の開発と発展」……………	梶幸雄
港湾産業研究会編「変革期の港湾産業」……………	松橋幸一
Dipl. Ing. Gustav Haussmann; Transcontainer-Umschlag……………	荒木智種
Maritime Cargo Transportation Conference N.A.S;	

San Francisco Port Study……………	千須和富士夫
-------------------------------	--------

8. 1970年 (No.8) 「流通革新と埠頭経営」

欧米のポート・オーソリティとわが国の港湾の管理問題	矢野剛
自由港の復興	柴田銀次郎
日本港湾におけるターミナルオペレーターの論理	東寿
広域港湾と埠頭経営	喜多村昌次郎
ターミナルオペレーションと公共性の経済的意味	千須和富士夫
「流通革新」と「港湾経営」の基本問題	北見俊郎
港湾における情報の研究	荒木智種
港湾労働者の供給側面について	篠原陽一
労務管理に見る港湾荷役企業近代化について	玉井克輔
港湾運送事業料金と港湾運送近代化基金について	山本長英
海運流通の斉合性 (そのⅡ, 海運流通斉合の方向)	神代方雅
湾域高速鉄道の方向	浅葉尚一
穀物サイロにおける内部流通の現象と 均一排出装置について	桜井正
港湾産業研究会編「輸送革新と港湾産業」	柴田悦子
新潟県商工労働部編「港湾労働者実態調査結果報告」	寺谷武明
R. O. Gross, Towards an Economic Appraisal of Port Investment	東海林滋
National Ports Council, A Comparison of the Cost of Continental and United Kingdom Ports	織田政夫

9. 1971年 (No.9) 「現代港湾の諸問題」

公企業経営としての港湾問題	東寿
港湾と港湾運送——港湾機能拡大と変革の基礎——	喜多村昌次郎
広域港湾における港運事業の近代化について	山本長英
東京湾港湾取扱い貨物量の適正化と港湾管理問題	千須和富士夫
港湾広域化問題の一考察	柴田悦子
巨大都市化と広域港湾問題	今野修平
港湾行政の近代化	和泉雄三
広域港湾と港湾経営の本質的課題	北見俊郎
明治時代の港湾と鉄道	宮野武雄
わが国における倉庫ならびに倉庫業の史的発展	斎藤公助
太平洋戦争下における港湾政策の意義	寺谷武明

港湾における賃労働と荷役業の成立と展開

——日本港湾労働の一研究として——	玉井克輔
港湾の油濁損害に関する一考察	今泉敬忠
工業港における埠頭利用の問題点	今野修平 永野為紀
港湾における言論の自由	荒木智種
港湾産業と鉄鋼産業	
——その系列化傾向と支配構造の一面について——	山村学
北海道における工業開発と港湾の課題	松沢太郎
海運流通の斉合性(Ⅲ)	
——資本生産性からみた斉合性の追求——	神代方雅
イギリス絶対王政下にみる港湾と海運(Ⅰ)	長島秀夫 小林照夫

喜多村昌次郎著「港湾産業」	松橋幸一
北見俊郎著「港湾総論」	山本和夫
欧米港湾労働事情研究調査団編著「欧米の港湾」	市川勝一
J. Mondalshi, Zegluga W Gospodarce Japonu 1964	山本泰督
William L. Grossman, Ocean Freight Rates	富田功
A. H. J. Bown, Port Economics	山上徹

10. 1972年(No.10)「輸送システムの変革と港湾」

輸送システムの変革と港湾の変貌	今野修平
輸送システムの変革と港湾運送業の体制的諸問題	北見俊郎
外航定期貨物輸送船における輸送システムの変革と 港湾運送業の再編成	市川勝一
輸送システムの変革と新しい公共財概念	東寿
フェリー運航と在来埠頭の再開発	松沢太郎
輸送システムの発展とターミナルオペレーションの変化	千須和富士夫
港湾および港湾事業の経済的性質	田中文信
港湾運送業の直面する問題点と背景	宮地光之
カーフェリー輸送と港湾	市来清也
道央海運流通と広域港湾	神代方雅
上屋戸前受制以後の変化について	田中省三
ポートコンピュータへの一観点	三木楯彦
輸送システムの変革と在来埠頭の再開発	永瀬栄治

寺谷武明著「日本港湾史論序説」	柴田悦子
柴田悦子著「港湾経済」	榎幸雄
東京港湾問題研究会「港湾問題研究」	斉藤圭太郎
港湾産業研究会編「港湾産業の危機と発展」	鈴木暁
市川猛雄著「港湾運送事業法論」	山上徹
Hamburger Hafen Jahrbuch, 1970	荒木智種
Ports of the World 1972, Twenty-fifth Edition	松木俊武
Proceedings of the Seventh Conference, The International Association of Ports and Harbors, 1971.12	富田功

11. 1973年(No.11)「港湾と地域経済・社会」

港湾の「近代化」と「地域社会」の基礎的課題	北見俊郎
港湾行政近代化と地域	和泉雄三
港湾の外部経済効果に関する定量分析	岡崎不二男
港湾機能と地域開発	徳田欣次
海運流通の体系化と地域港湾の諸問題	神代方雅
新潟港の諸問題と将来課題	佐藤元重
名古屋貿易業界と名古屋港	菅沼澄
那覇港の現状と方向に関する一考察	山内盛弘
わが国における海上コンテナ貨物流動の実態について	棚橋貞明
港湾におけるレジャー機能の展開と地域開発	千須和富士夫
港湾労働組合形成期の港湾争議	玉井克輔
CTS建設をめぐる	松岡英郎
公共埠頭に於ける港湾労働の近代化と 福利厚生施設について	市川勝一
財務諸表からみた鉄鋼専門埠頭	山村学
港湾労働者の労働時間に関する一考察	土居靖範
和泉雄三著「港湾行政」	鈴木暁
今泉敬忠・坪井昭彦共訳「船舶の衝突と海上保険」	三村真人
J. Bird, Seaport and Seaport Terminals	東海林滋
G. J. Murphy, Transport and Distribution	織田政夫
David F. Wilson, Dockers. The Impact of Industrial Change	富田功
E. A. Kautz, Das Standortproblem der Seehäfen	山上徹

12. 1974 (No.12) 「地方港湾の役割と課題」

地方港湾における港湾機能の変遷——長崎港の場合——	河地貫一
荻田港の現状と開発計画	日高広範
舞鶴港の問題点と地域開発	金井萬造
三崎漁港の機能と課題	小内藤照夫
能登における地方港湾開発の課題	雨宮洋司
地方港湾における管理・運営の諸問題と課題	
——小名浜港との関連において——	富田功徹
内貿流通拠点港湾の概念と課題	高見玄一郎
国土利用の斉合化と地方港湾	神代方雅
日本中世の港湾——和賀江島を中心として——	奥富敬之
ポート・サービスにおける2つの形態	松岡英郎
発展途上国の経済発展と港湾の役割	
——特にインドの経済発展と港湾——	米山讓
「需要調整型」港湾体系への課題	
——港湾機能の転換と港湾投資——	鈴木暁
ハンブルグ港の労働事情	山本長英
北見・喜多村編「港湾流通」	市来清也
喜多村昌次郎著「欧米の港湾労働」	玉井克輔
秋山・佐藤共訳「発展途上国における港湾の諸問題」	三村真人
Port Costs and the Demand for Port Facilities	織田政夫

13. 1975年 (No.13) 「港湾と物価問題」

港湾におけるコスト形成の諸問題	長尾義三
物価と港湾——価格形成における港湾の位置——	柴田悦子
物価問題と港湾の役割	東寿
港湾の物流構造からみた物価問題の一側面	山村学
市民経済と港湾政策の転換	
——物価との関連において——	富田功
元朝港湾政策史研究序説	
——貿易管理と港湾を中心として——	千須和富士夫
日本古代官津概観——古代港湾官津説の提唱——	奥富敬之
エーゲ海の古代港湾・序説	高見玄一郎
石川県における港湾管理の実態	大音宗昭

船員の余暇問題と港湾福祉施策	篠原陽一
ロンドン港湾局開発5か年政策の概要	山本長英

北見・荒木著「港湾社会」	高橋恵三
波多江俊孝著「関税・税関論」	三村真人
日本港湾協会「港湾の安全及び環境保全対策 に関する調査研究」	神代方雅
J. M. Thompson, Modern Transport Economics	羽倉弘之

14. 1976年 (No.14) 「港湾経営と財政問題」

港湾財政の基本問題	田中文信
港湾財政問題に関する若干の考察 ——当面する問題点を中心に——	奥村武正 高橋恵三
流通拠点港湾の機能と背後施設の運営管理	市来清也
地方財政からみた港湾経営問題の一考察	山村学
鎌倉中末期社会変動と港湾 ——荘園港湾から商業港湾へ——	奥富敬之
東アジア貿易上に占める沖縄港湾の地位 ——特に14世紀を中心として——	千須和富士夫
防衛施設所在港湾の矛盾と問題点 ——佐世保港をモデルとして——	中本昭夫
備蓄サイロ問題の一考察	斎藤公助
港湾と農産物輸入の基本的問題	石坂央
外貿港湾における後背地の役割と貨物取扱量の予測方法	入江成雄
港湾労働者の職業移動、労働市場について	徳田欣次
コンテナ貨物の交錯輸送についての一考察 ——東京港を中心として——	棚橋貞明
北見俊郎著「都市と港——港湾都市研究序説——」	鈴木暁
A. H. J. Bown, Port Economics	松木俊武

15. 1977年 (No.15) 「都市問題と港湾」

大都市港湾の貨物流動と港湾機能 ——東京港のはしけから自動車への移行を中心として——	関谷義男
産業都市と港湾	田中文信

大都市の港湾と廃棄物の埋立処分	小林良久
大都市港湾の環境整備問題	
——東京都における海上公園事業について——	小倉健男
低経済成長下における都市港湾の経営問題	山本和夫
臨海部開発における若干の問題点の考察	
——都市問題を中心に——	高橋恵三
都市化と経済の変化からみた大都市港湾の展望と課題	今野修平
江戸の都市構造と湊	佐藤正夫
元代の開港都市について	
——慶元・上海・敢浦中心に——	千須和 富士夫
貿易における利用港湾選択基準に関する一考察	岡崎 不二男
——名古屋港の場合——	森茂也彦 木村武彦
輸入木材と港湾	斎藤公助
港湾の経済学的研究の現状と課題	
——方法論としての「近代化」論——	小林照夫
北見俊郎・奥村武正編著「都市と臨海部開発」	富田 功
秋山龍・岡部保監修「欧米諸国の港湾管理とその財政」	土居 靖 範
16. 1978年(No.16)「地域開発と港湾問題」	
地域開発と港湾流通体系	神代方雅
開発問題と港湾に関する一考察	山村 学
港湾施設の整備と地域開発	鷹取 稠
新段階の地域開発と港湾	今野修平
地域開発の総合的性格と港湾問題	北見俊郎
日本港湾行政史の基礎的研究(Ⅰ)	奥 富 敬 之
元代の泉州港・広東港	
——外国貿易管理手続きを中心として——	千須和 富士夫
御手洗港に関する一考察	
——過疎、離島の地方港湾——	中 本 昭 夫
海港立地における「資本指向」の基礎的研究	山 上 徹
大都市港湾の機能転換と経済政策との相互作用	木 村 武 彦
港湾管理・運営の問題点と港湾経営の課題	富 田 功
港湾振興と港湾管理者の役割	柴 田 悦 子

17. 1979年(No.17)「都市と港湾」

港湾都市の外部効果に関する一考察	宮 本 実
港湾における資本主義的發展の諸形態	高 見 玄一郎
都市と港湾の乖離	今 野 修 平
都市化の進展と港湾問題	山 村 学
都市と港湾にかかわる計画と管理について	大 音 宗 昭
「市民による都市創造」と港湾の整備	千須和 富士夫
大都市港湾管理における新理念の導入	
——營造物管理者から用役生産管理者へ——	木 村 武 彦
内貿雑貨輸送と港湾問題	市 来 清 也
隣接二港湾をめぐる物流システムの考察	国 領 英 雄 三 木 楯 彦
はしけ運送の効果に関する一考察	松 橋 幸 一
函館港の湾岸道路構想	和 泉 雄 三 奥 平 忠 志
港湾と物流事業の公共性	斎 藤 公 助
港湾経営に関する基本的考察	
——「港湾経営化」の特質をめぐって——	富 田 功

E.A. カウツ著、山上徹訳「Das Standortsproblem

der Seehäfen」(「海港立地論」) 梶 幸 雄

柴田悦子編著「みなとの明日を考える」 土 居 靖 範

北見俊郎編「港の社会科学」 坂 井 吉 良

18. 1980年(No.18)「人間生活と港湾」

人間の生活と港湾

——総論的諸問題をめぐって——	北 見 俊 郎
スコットランド産業革命期の人間生活と港湾	
—— Leith 港の改修築工事をめぐって——	小 林 照 夫
生活環境施設としての港湾	今 野 修 平
港湾計画における市民参加	
——兵庫県甲子園浜住民運動にふれつつ——	柴 田 悦 子
歴史世界における人間と港湾	高 見 玄一郎
横浜港史序説	
——横浜浮世絵を通じてみた初期横浜港——	千須和 富士夫
港湾労働行政と神奈川県	大 森 秀 雄

日本港湾行政史の基礎的研究(Ⅲ)	奥 富 敬 之
港湾再開発に関する一考察	金 井 萬 造
大都市港湾管理体制の転換をめぐる政策課題	木 村 武 彦
外貿埠頭公団の廃止と PORT AUTHORITY 設立への道	土 居 靖 範
港湾再開発問題に関する基礎的考察 ——港湾再開発調査に関連して——	富 田 功
ステーション交通としての海港流通経済についての 基礎的考察	山 上 徹
地方の時代と港湾	永 瀬 栄 治
喜多村昌次郎著「続・欧米の港湾労働」	和 泉 雄 三
ジョセフ・H・ボール著、飯田秀雄訳 「米国海運労働慣行の研究」	市 来 清 也
港湾都市情報サービス編「港湾業務の体系」	斎 藤 公 助
鷹取稠編著「現代交通・港湾の諸問題」	針 谷 荘 司
佐世保市史編さん委員会編「佐世保市政七十年史」	松 本 勇
山上徹著「海港経済論」	山 村 学
19. 1981年(No.19)「都市経済と港湾経営」	
港湾管理者と港湾都市の基本的課題	北 見 俊 郎
都市港湾の流通問題に関する考察	市 来 清 也
港湾管理と港湾行政——港湾経済との関係——	和 泉 雄 三
地域開発政策と大都市港湾の計画上の課題	木 村 武 彦
都市経済と港湾機能の変化	山 村 学
日本経済の発展との対応からみた横浜港の今後の課題	今 野 修 平
横浜港の歴史的発展と今後の課題	高 見 玄一郎
定期船港としての横浜港の将来	千須和 富士夫
横浜港新開発計画に基づく港湾のあり方	山 本 長 英
港湾の史的考察 ——近代港湾成立期の名古屋港を中心として——	蟹 江 猛 日比野 光 伸
港湾における労務管理制度——共同雇用問題を中心に——	田 中 省 三
港湾行政の研究と実態について	中 本 昭 夫
ポート・メディアの社会的責任 ——機関誌「港湾」の報文動向——	荒 木 智 種

リース港の広域化問題と小規模鉄道の建設

——スコットランドに於ける鉄道建設の一つの例証——	小林 照 夫
沿岸域問題と港湾再開発	長 尾 義 三

小林照夫著「スコットランド産業革命の展開」	安 彦 正 一
鷹取稠著「港湾整備と地域開発」	木 村 晶 子
市来清也「物流経営論」	斎 藤 公 助
Elke Schulz-Hanssen, Die Verkehrswirtschaft	

des Seehäfens	山 上 徹
---------------	-------

20. 1982年 (No.20) 「地方港湾の構造と課題」

地方の発展と地方港湾	神 代 方 雅
港湾と生鮮食料品の流通について	

——中央卸売市場に関連して——	中 本 昭 夫
石川県の港湾について	米 山 讓
地域振興からみた地方圏港湾の発展と今後の課題	今 野 修 平
富山新港開発の過程と地域の課題	雨 宮 洋 司
富山湾諸港の現状と問題点	二 神 弘
港湾再開発に関する一考察	金 井 萬 造
物的流通における海港の発達過程	

——コンテナ港を中心として——	山 上 徹
港湾運送事業の資源配分の効率性	坂 井 吉 良
坂井港と蘭人技師エッセル	寺 谷 武 明
地域経済の発展と港湾の課題	日 比 野 光 伸
港湾海岸行政の形態と諸問題	

——公費官営事業を中心として——	香 川 正 俊
明治初期の横浜港整備計画	千 須 和 富士夫
北海道港湾建設史	松 沢 太 郎

港湾都市サービス編「港湾都市」——川崎・横須賀港——	斎 藤 公 助
市川猛雄著「港湾運送事業法セミナー」	松 橋 幸 一
井下田猛著「環境科学論」	富 田 功

21. 1983年 (No.21) 「輸送体系の変化と港湾」

競争関係にある港湾の背後圏と輸送需要	黒 田 秀 彦
非集計モデルを用いた輸送体系の変化予測	長 尾 義 三 喜 多 秀 行

コンテナ輸送市場の構造変動と港湾	木村武彦
本四架橋の関連調査について	
—— 四国地方の港湾と海上交通を中心として ——	中本昭夫
青函トンネルの経済性	和泉雄三
輸送体系の変化と港	
—— 地方の港における港湾と地域経済の乖離について ——	
(留萌港の分析)	徳田欣次
交通体系の再構築と港湾	今野修平
明治期に於ける港湾事情と商品流通	
—— 東北諸港報告書から見た場合 ——	安彦正一
港湾行政統一への歴史的過程	香川正俊
コンテナ港問題の基礎的分析	
—— 中国の港を中心に ——	山上徹
本四架橋と港湾物流	市来清也
地域産業と港湾	
—— 伊勢湾における港湾機能を求めて ——	日比野光伸
港湾労働市場の賃金決定機構の研究	坂井吉良
生産資本の港湾経営	千須和富士夫
紅村文雄著「港湾法と名古屋港の管理運営」	北見俊郎
和泉雄三著「港湾政治経済学」	山本和夫
港湾産業研究会編「港湾産業活動の課題」	梶幸雄
Jan Owen Jansson and Dan Shneerson, Port Economics	宮田騰宏
22. 1984年(No.22)「国際経済と港の動向」	
国際海上輸送革新と港湾管理	
—— 名古屋港の場合 ——	原口好郎
外部環境の変化と港湾経営	岡野行秀
国際海運の変化と港湾	柴田悦子
国際化の中の産業の発展と港湾	日比野光伸
自動車産業による資本輸出と港湾	
—— 世界資本主義の現段階 ——	千須和富士夫
世界経済の中の日本経済	
—— 港湾経済の背景 ——	片野彦二
名古屋港船舶入出港システムの現況と今後のシステム開発	永井武司

地域活性化をめざした港湾づくりに関する一考察……………	金 井 萬 造 為 国 豊 治
水域に関する研究	
——佐世保港を事例として——……………	中 本 昭 夫
公有水面埋立行政と環境保全	
——行政組織行為と法的観点を中心に——……………	香 川 正 俊
高度情報化社会における港湾産業活動……………	松 橋 幸 一
名古屋港管理組合三十年史編集会議編	
「名古屋港管理組合三十年史」……………	松 浦 茂 治
西尾一郎編著「港湾経営論」……………	安 彦 正 一
市来清也著「港湾管理論」……………	木 村 武 彦
Charls W. Hallberg, The Suez Canal ……………	山 上 徹
松橋幸一著「港湾物流管理論」……………	富 田 功
23. 1985年 (No.23) 「港湾活性化と都市再開発」	
アメニティと港湾再開発に関する一考察……………	香 川 正 俊
港湾空間活性化に関する一考察……………	金 井 萬 造
港湾都市の再生と活性化……………	安 田 八十五
港湾活性化と地域開発	
——韓国の西海岸を中心に——……………	金 在 河
港湾機能の拡充と再開発	
——神戸港長期計画検討委員会の報告書から——……………	雑 喉 徹
都市・経済政策上の港湾活性化の理念……………	木 村 武 彦
「港湾活性化と都市再開発」への基本的考察……………	北 見 俊 郎
近世土佐藩の総合開発と築港技術	
——野中兼山の政策を中心に——……………	安 彦 正 一
港湾労働における賃金構造……………	本 田 重 美 宮 田 譲
港湾産業とハイテクノロジー……………	森 口 明
港湾物流の変化とその対応課題……………	山 村 学
大都市港湾管理と統一的管理機関	
——大阪湾の場合——……………	入 谷 貴 夫
港湾における計画主体……………	長 尾 義 三 川 崎 芳 一
北見俊郎著「港湾政策の形成と課題」……………	喜多村 昌次郎

中本昭夫著「佐世保港の戦後史」「続佐世保港の戦後史」	柴田悦子
是常福治著「戦後における港湾労働近代化のあゆみ」	田中省三
B. S. Hoyle, D. Hilling, Seaport System	

and Spatial Change	山上徹
--------------------	-----

24. 1986年 (No.24) 「港湾と国際複合輸送の展望」

海貨業の総合物流業への脱皮	山田源次
---------------	------

A Study on Port-Harbor and International

Intermodal Transportation	金在河
国際複合輸送と港湾機能	市来清也
国際一貫輸送の進展と港湾問題	山村学
国際複合輸送の展開と港湾	高橋恵三
関東の船運と東京港	佐藤正夫
わが国港湾の労働政策と課題	田中省三
競争効果とX-効率	坂井吉良
倉庫機能と図書館機能	谷端政嗣
自動車輸送と港湾機能の変化	遠藤幸子
機密保護法下の港湾研究	千須和富士夫
船舶登録国と港湾国の協力	榎本喜三郎
中共交易と群山港の広域背後地開発に関する研究	朴餅洪
中国経済体制改革と上海港	高見玄一郎
産業の多国籍戦略と港湾	日比野光伸
韓国港湾行政と港湾開発	金洪基

Canadian International Seaport City and

its Socio-cultural History	Tomotane Arai
----------------------------	---------------

喜多村昌次郎編 港湾シリーズ「港湾労働」	大森秀雄
篠原陽一編著「現代の海運」	木村武彦
北見俊郎・喜多村昌次郎・山上徹編著	
「港と経済・社会の変貌」	鷹取稠

25. 1987年 (No.25) 「臨海部再開発と港湾」

臨海部再開発に関する考察	鈴木暁
ウォーターフロント開発における都市と港湾	横内憲久
港湾の倉庫空間を活用した臨海部の活性化	金井萬造 為国豊治

ゲーム理論による港湾再開跡地の機能立地モデル……………	黒田勝彦
臨海部再開発の政策基調の変化……………	木村武彦
国際複合運送の進展に対する港の対応について……………	宮田 騰 宏
機械化と日本の港湾労働……………	クワンシー・チ エイ・アモアー ベン
港湾の活性化に果たす商社の役割……………	遠藤幸子
清水港の発展に見る企業者活動の展開と企業経営……………	安彦正一
韓国における港湾経営戦略……………	金在河
環黄海経済圏構想と港湾について……………	中本昭夫
中国古代水運と港湾について……………	高見玄一郎
山上徹著「交通サービスと港」……………	大浜 慶 和
Alan E. Branch, Elements of Port Operation and Management……………	山 上 徹
ダグラス・M・レン著、横内憲久監訳 「都市のウォーターフロント開発」……………	富田 功
26. 1988年(No.26)「港湾とヒンターランド」	
戦後北海道港湾歴史の特色……………	和泉雄三
ヒンターランドの類型化と領域の測定……………	千須和 富士夫
港の背後地とネットワークについて……………	山 上 徹
西海岸と港湾背後地造成の課題……………	朴 餅 洪
港湾空間を活用した地域活性に関する一考察……………	金井 萬 造 北原 良彦
四全総における地域交通ネットワークの 形成に対する一考察……………	神代方雅
掛塚湊の歴史の変遷……………	谷 任
産業の発展と港湾……………	日比野 光 伸
韓国港湾の現況と港湾機能の方向……………	金 洪 基
横浜港における港湾労働者規制法の史的考察……………	大 森 秀 雄
後発コンテナ港の成長が先発コンテナ港の 後背圏に及ぼす影響……………	郭 圭 錫
港湾政策の形成……………	松 浦 茂 治
横内憲久・横内研究室著	
「ウォーターフロント開発の手法」……………	安彦正一

山上徹編著「国際物流概論」	富田功
Jean-Georges Baudelaire, Port Administration and Management	香川正俊

27. 1989年 (No.27) 「港湾と国際経済社会の変貌」

東アジアにおけるコンテナ港湾の競合	遠藤幸子
シンガポール港の変化と物流ネットワーク	山上徹
日中貿易と中国物流体制	柴田悦子
生産の国際化と国際物流	
——荷主とフォワーダーの海外進出——	鈴木暁
国際化の進展と港湾の課題	山村学
世界都市機能集積と沿岸域管理の共生	木村武彦
港湾の計画とその地域的課題	千須和 富士夫
港湾価格決定における競争とサービスの効率性	V.I.D.J ペレラ
神戸棧橋会社の成立事情と埠頭経営	
——経営史的考察を中心に——	安彦正一
港湾補助と港湾経営	金亨泰
港運業の変貌と課題	
——コンテナ化時代に関連して——	富田功
最貧国における海浜リゾート開発の可能性とその問題点	吉岡秀輝
中国の内航運送管理と改革	宋建生
三世北九州のみなど	小合彬生
産業前進基地としての西海岸時代	趙履晟

和泉雄三著「港湾政治経済学の理論体系」	北見俊郎
高見玄一郎著「港の世界史」	小林照夫
田尻宗昭編「提言・東京湾の保全と再生」	堀野正人

28. 1990年 (No.28) 「ウォーターフロント開発と港」

ウォーターフロント開発と港	金在河
千葉のウォーターフロントの地域構造	遠藤幸子
帆船海王丸とウォーターフロント政策	雨宮洋司
ウォーターフロント開発と漁業権問題	小林照夫
港湾景観の分析と評価	芦見忠志彦
ウォーターフロント問題の基本的課題	北見俊郎

港湾産業の独立性に関する一考察	金 亨 泰
港湾諸費用形成要素と競争条件	千須和 富士夫
横浜港における港湾産業の生産力構造	松 橋 幸 一
国際化と港湾財政	日比野 光 伸
港運経営の変貌と企業経営戦略	富 田 功
富士川舟運と清水湊の形成	谷 任

松橋幸一著「港湾経済文献事典」	安 彦 正 一
市来清也著「国際物流要論」	木 村 武 彦
横浜港史刊行委員会編「横浜港史」	柴 田 悦 子
Marc J. Hershman, Urban Ports and Harbor Management	山 上 徹

29. 1991年 (No.29) 「横浜港、その課題と展望」

横浜港と R.H. ブラントン	長 尾 義 三
国際港湾都市としての核「横浜」の課題と展望	山 村 学
港湾の背後圏と物流	鈴 木 暁
横浜港における港湾産業の生産力構造の推移と展望	松 橋 幸 一
都市機能と港湾機能	遠 藤 幸 子
港湾研究の領域拡大の検討	柴 田 悦 子
港湾行政について	中 本 昭 夫
大日本帝国統治下の朝鮮の港湾	千須和 富士夫
沖合人工島の建設と保護	藤 井 敬 宏
港湾事業の民営化に関する理論形成	金 亨 泰
ウォーターフロント開発政策と日本経済の転換	木 村 武 彦
京浜工業地帯の形成と物流体系	谷 任
港湾のパラダイム転換	富 田 功
横浜港と市民生活	堀 野 正 人
輸入拡大と港湾産業の役割	三 村 真 人
地方における港湾経営とウォーターフロント開発について	針 谷 荘 司
中国の内河港湾の発展と改革について	宋 建 生
韓国西海岸諸港湾の連繋に関する考察	朴 餅 洪
邪馬国のみなとと貿易	小 合 彬 生
山上徹著「国際物流のネットワークと港」	大 浜 慶 和
柴田悦子編著「国際物流の経済学」	荒 木 智 種

小林照夫編著「蒼穹の下魚鱗耀ける地

——柴漁業協同組合史——」……………安彦正一

◆日本港湾経済学会30年のあゆみ

- 1962年 創立総会および第1回大会開催(横浜港)
- 1963年 第2回大会(東京港) 共通論題(港湾投資の諸問題)
- 1964年 第3回大会(神戸港) 共通論題(経済発展と港湾経営)
- 1965年 第4回大会(名古屋港) 共通論題(地域開発と港湾)
- 1966年 第5回大会(新潟港) 共通論題(日本海沿岸における港湾の諸問題と将来)
- 1967年 第6回大会(北九州・下関港) 共通論題(輸送の近代化と港湾)
- 1968年 第7回大会(小樽・道央諸港) 共通論題(流通体系の斉合性と港湾の近代化)
- 1969年 第8回大会(大阪港) 共通論題(大都市港湾の諸問題と将来)
- 1970年 第9回大会(清水港) 共通論題(流通革新と埠頭経営)
- 1971年 第10回大会(横浜港) 共通論題(広域港湾と港湾経営の諸問題)
- 1972年 第11回大会(神戸港) 共通論題(輸送システムの変革と港湾運営)
- 1973年 第12回大会(名古屋港) 共通論題(港湾の近代化と地域経済・社会)
- 1974年 第13回大会(長崎港) 共通論題(地方港湾の役割と課題)
- 1975年 第14回大会(千葉港) 共通論題(港湾と物価問題)
- 1976年 第15回大会(那覇港) 共通論題(港湾経営と財政問題)
- 1977年 第16回大会(東京港) 共通論題(港湾と都市問題)
- 1978年 第17回大会(札幌・道央諸港) 共通論題(地域開発と港湾問題)
- 1979年 第18回大会(神戸港) 共通論題(都市と港湾)
- 1980年 第19回大会(佐世保港) 共通論題(人間生活と港湾)
- 1981年 第20回大会(横浜港) 共通論題(都市経済と港湾経営)
- 1982年 第21回大会(富山新港) 共通論題(地方港湾の構造と課題)
- 1983年 第22回大会(松山港) 共通論題(輸送体系の変化と港湾)
- 1984年 第23回大会(名古屋港) 共通論題(国際経済と港の動向)
- 1985年 第24回大会(大阪港) 共通論題(港湾活性化と都市再開発)
- 1986年 第25回大会(東京港) 共通論題(港湾と国際複合輸送の展望)
- 1987年 第26回大会(清水港) 共通論題(臨海部再開発と港湾)
- 1988年 第27回大会(北海道) 共通論題(港湾とヒンターランド)

- 1989年 第28回大会(北 九 州 港) 共通論題(港湾と国際経済社会の変
貌)
- 1990年 第29回大会(川 崎 港) 共通論題(ウォーターフロント開発
と港)
- 1991年 第30回大会(横 浜 港) 共通論題(横浜港, その課題と展
望)

編集後記

日本港湾経済学会第30回大会が、学会発祥の地、横浜港に開催され、その創立30周年記念事業の一環として、「記念論文集」の発刊が企画されたわけである。30周年というサイクルにおいては、わが国の港湾が社会・経済面に果たしてきた役割や性格もかなり変革したことは確かである。学会創立当初、多くの港で船混みが発生し、とくに昭和30年代後半の港湾の機能は、工業港としての重化学工業の発達と関係し、その後、公害問題、石油ショックの発生など多くの社会・経済的問題が発生した。また最近、多国籍企業の現地生産化などにより「重厚長大」から「軽薄短小」化へとわが国の産業構造が変化し、港湾に対する社会的・経済的ニーズが変化し、とくに国際複合一貫輸送に代表されるコンテナ輸送による港湾機能の変化などが生じている。そこで学会としての研究視角も変化しつつ、学際的・総合的研究が必要となり、また研究視角の変化のみならず、学会活動自体も国際化し、たとえば国内会員ばかりでなく、韓国、中国などの外国人会員も多くなってきている。

日本港湾経済学会は、過去30年間の長きにわたり、港湾研究を個別化、細分化しつつ、また学際化、総合化により学問水準を高めてきたといえよう。今後とも社会・経済環境の変化の波がさらに大きくなっていくとすれば、学会の使命は、単なる回顧ばかりでなく、時代的先取りによる「港湾のあり方」を研究するべきであろう。

この度の記念論文集は、「回顧と展望」を念頭としつつ、4部門22名の論文から編集されている。あらかじめ会員から投稿希望者を募り、編集委員会において内容・形式などをもとに査読し、掲載の可否を検討したのである。しかし論文集であるために、取りあげた分野には精粗があり、また編集上の不備な点が多々あるかと思われるが、この点について大方のご海容を乞う次第である。

ここに日本港湾経済学会創立30周年を記念するにたり得る論文集が公刊できたことは、誠に喜ばしき限りであり、編集委員会一同心からお礼申し上げる次第です。

最後に、編集に際し、執筆者の方々に多大なご協力をいただいたことを改めて感謝したい。また本論文集の発刊に誠意をもってお世話下さった成山堂書店社長 小川 實氏に心からお礼申し上げる次第である。

(文責： 山 上 徹)

港湾・海運・物流関係図書案内

港湾政治経済学の理論体系	和泉雄三著	A 5・358頁・3914円
三訂版 港湾運送事業法論	市川猛雄著	A 5・362頁・4120円
港湾運送事業法セミナー	市川猛雄著	A 5・322頁・3502円
新訂 港湾管理論	市来清也著	A 5・184頁・2266円
倉庫概論	市来清也著	A 5・228頁・2678円
港運概論	天田乙丙著	A 5・230頁・3000円
港湾知識の A B C	池田宗雄著	A 5・240頁・3000円
地方港湾の役割と課題	日本港湾経済学会編	A 5・252頁・2575円
港湾と物価問題	日本港湾経済学会編	A 5・182頁・2266円
港湾経営と財政問題	日本港湾経済学会編	A 5・208頁・2369円
港湾運送例規集	運輸省港湾局港政課編	A 5・416頁・1854円
港湾新書 港湾情報産業の実務	港湾総合研究所編	A 5・258頁・1009円
交通サービスと港	山上徹著	A 5・248頁・2884円
外航海運の A B C	川上博夫著	A 5・264頁・2800円
新訂 海運の概要	岡庭博著	A 5・276頁・3000円
海運経済論	織田政夫著	A 5・392頁・3914円
海運政策論	織田政夫著	A 5・404頁・4120円
総合コンテナ実務用語辞典	日本海上コンテナ協会編	A 5・402頁・7004円
最新コンテナリゼーション総覧	日本海上コンテナ協会編	A 5・1172頁・15450円
国際コンテナ実務要覧	日本海上コンテナ協会編	A 5・496頁・7004円
コンテナへの積付実務	山下新日本汽船海務部編	A 5・216頁・1236円
冷凍コンテナ便覧	上村建二著	A 5・422頁・4635円
コンテナリゼーションと標準化	浦田楠雄著	A 5・336頁・4120円
載貨と海上輸送	運航技術研究会編	A 5・404頁・4120円
新訂 海上貨物輸送の実務	海上貨物輸送編 実務研究会	A 5・400頁・4944円
1984年米国海運法の解説	海事産業研究所編	A 5・386頁・4635円
国際複合輸送の知識	大阪商船三井 大船舶株式会社編著	A 5・170頁・2200円
新実戦物流管理読本	河西健次著	四六・324頁・2060円
国際物流の経済学	柴田悦子編著	A 5・240頁・2800円
シップネッツの A B C	木島隆一監修	A 5・196頁・2200円
宅配便	齊藤実著	A 5・176頁・1800円

—貿易関連情報EDI化の現状と展望—

—現代輸送の
イノベーター—

日本港湾経済学会創立30周年記念論文集編集委員会

委員長 山 上 徹

安彦正一・雨宮洋司・井関弘太郎
遠藤幸子・香川正俊・木村武彦
小林照夫・柴田悦子・寺田一薰
徳田欣次・富田功・堀野正人
本田重美・松橋幸一・松本勇
三村真人・宮田騰宏・吉岡秀輝

港・ウォーターフロントの研究

定価はカバーに表示
してあります。

平成3年10月25日 初版印刷

©1991

平成3年10月28日 初版発行

編 者 日本港湾経済学会
創立30周年記念論文集
編 集 委 員 会

発行者 ㈱成山堂書店

代表者 小川 實

印刷者 ㈱廣濟堂

東京都新宿区南元町4番51
(〒160) 成山堂ビル

発行所 株式会社 成山堂書店

T E L 03 (3357) 5861

F A X 03 (3357) 5867

振替口座 東京7-78174番

Printed in Japan

ISBN4-425-39118-7